

令和4年度 自己評価・学校関係者評価書

令和5年3月31日
認定こども園すき幼稚園

1 認定こども園の教育目標

「自立できる人・たくましい生命力のある人・人に親切にできる人」を目指す人間像として、立腰教育や躰の三原則を基盤に置いた生活習慣を徹底する。又、幼児の持つ可能性をあらゆる場面で発揮できるよう、言語活動や音楽、運動にも力を入れた総合的な遊びを展開する。

2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

感染症の鎮静化を前提として各教育、行事等の回復を目指す。特に年長児においては、感染症により未経験の行事が発生しないよう、工夫して年間の保育を実施する。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由	学校関係者評価
1 保育の計画性	A	コロナによる中止や変更のあった行事を元の要領に復旧した物が多く、それにより子ども達が未経験のまま卒園することのないよう、行事ごとに職員間の話し合いを持ち、安全性と経験値の両立を図った上でいかに実施できるか企図した。	A
2 保育のあり方 幼児への対応	A	コロナを言い訳にすることなく、教育目標に向かって十分に教育を施せた。	A
3 教師としての資質、 能力、良識、適正	A	子どもの最大の利益を常に前提として、職員間で議論や話し合いを重ねた。実技の向上に園外講師をオンラインでお願いするなど、保育者の向上を目指した取り組みも実施できた。	A
4 保護者への対応	A	園と保護者の全体的な雰囲気はとても良く、職員の対応に対して満足頂いている。	A
5 地域の自然や社会との かかわり	B	園外保育を増やしたり、社会見学や体験等もコロナ前の状況に近づけたが、十分な関わりを持っているというには少し足りない。	B
6 研修と研究	A	研修への参加はオンラインやオンデマンド化の拡充によって十分にできている。外部講師の研修も数回実施したが、全てオンラインで行うことができた。	A
7 外部アンケート	A	教育目標や方針が明確であり、本年度も外部からの評価は高かった。	A

* 結果の表示方法
A 十分達成されている。
B 達成されている
C 取り組まれているが、成果が十分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

コロナ発生から3年目を迎え、自粛に対する抵抗感や疲弊感が出てきた年であると実感し、各教育や行事等を可能な限り復旧させた。特に年長児にあっては、未経験のまま卒業してしまう行事等が少しでも無くなるよう、「どうやったらできるのか」を柱に各行事等に備えた。それが功を奏し、保護者にも満足して頂いた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育の計画性	行事に比重を置きすぎる傾向にある為、日々の保育を充実させるような計画の再考が必要。
地域の自然や社会とのかかわり	近隣の地域での活動が乏しい為、協力先を開拓する必要があると感じている。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

卒業生、在園児を問わず、良い園であると話してくれる方が多い。その為口コミで見学から入園に至るケースも多く、保護者が保護者に薦めるという現象が起こっている。好評であると感じているので、慢心することなく努力を続けてもらいたい。また、SNSなどによる情報発信にも力を入れているのが見受けられ、閉鎖的と言われがちな保育現場のイメージに変化をもたらしている。